

論文内容の要旨

氏名	原良太
Ultrasound-detected synovitis of the forefoot in patients with early rheumatoid arthritis, unlike that of the hand, does not correlate positively with 28-joint disease activity scores (和訳) 早期関節リウマチ患者において関節エコーで検出される前足部滑膜炎は、手部滑膜炎とは異なり、28 関節評価での疾患活動性スコアと正の相関を示さない	

論文内容の要旨

近年の関節リウマチの治療は、臨床的寛解を達成することが目標となったが、その治療方針の決定には前足部を含まない 28 関節を評価対象関節とする統合的活動性指標が頻用される。前足部は他の評価対象外の関節と比べて罹患頻度が高く、理学所見の診断精度が低いことが問題である。本研究は、発症早期の関節リウマチ(ERA)を対象に関節エコー(US)で検出される滑膜炎と疾患活動性、バイオマーカーと機能評価との関連を手部、足部に分けて検討した。タイトコントロール治療を開始する前の ERA 患者 38 名(男性 6 名、女性 32 名)を対象とした。関節エコーによるグレースケール(GS)法とパワードプラ(PD)法を用いて、両側の手指関節、手関節、前足部関節の半定量的なエコー評価を行い、それぞれの総和を手部 US スコアと足部 US スコアとした。また、中足趾節(MTP)関節については、理学所見による臨床的関節炎を基準とした時の US による関節炎の診断精度を調査した。また、各 US スコアと 28 関節評価による統合的疾患活動性、血清バイオマーカー、患者報告機能障害スコアを用いた複合指標との関連を解析した。理学所見による MTP 関節の腫脹と圧痛のそれぞれを基準とした場合、GS および PD スコアがそれぞれ 1 以上で定義した US 関節炎の陽性的中率は低かった(GS: 16.0%、12.5%、PD: 38.5%、17.5%)。手部の US スコア、特に手部の PD スコアでは、統合的疾患活動性スコアやバイオマーカーと有意な中等度の正の相関を示したが、足部の US スコアは、どの因子とも正の相関を示さなかった。これらの関連については、各 US スコアを組み込み、年齢を調整した多変量解析においても頑健であった。本研究結果より、ERA 患者において US で検出された前足部滑膜炎の活動性は、前足部の直接評価を含まない統合的疾患活動スコアに反映されない可能性が示唆された。